

あだたら

◆ 特集 ◆ 地球体験キャラバンスペシャル リポート



JICA二本松で行われた「地球体験キャラバンスペシャル2010」の様子



タイ文字で自分の名前を書く参加者



外国人ゲストとボール送りゲームで交流

地球体験キャラバンスペシャル 2010

～交流と学びの世界旅行～

平成22年8月1日、ふくしま青年海外協力隊の会との共催により、JICA二本松で「地球体験キャラバンスペシャル2010」を開催しました。このイベントは小中学生を対象に、毎年夏休みの時期に行っています。今年は50名以上の一般参加者が集いました。元青年海外協力隊員（以下「元協力隊員」）から開発途上国のことを聞いたり、日本に来ているJICA研修員や県費留学生などの外国人ゲストと一緒に、クイズやスポーツ、音楽などを通して世界のことを知って、学び、楽しんでもらうことを目的としています。

今年は外国人ゲストが出題する○×クイズをしたり、グループ対抗綱引きや玉入れをして汗をかいたあと、食堂でカレーとナンのお昼ご飯を食べました。午後は、元協力隊員がそれぞれ工夫をこらして展示した世界各地のブースを廻って、楽器などに触れたり、話を聞いたり、外国の文字を学んだりしました。最後にメキシコ人ボーカリストと二本松市にあるダンススタジオの先生をお招きし、「ポラーレ」の曲に合わせて全員で踊りました。

折からの暑さに、バテ気味の参加者もいましたが、スポーツやダンスを通して、外国人ゲストと楽しく交流することができ、また世界旅行に見立てた元協力隊員の赴任国紹介でさまざまな文化に触れることができ、参加者からは「楽しかった」、「世界旅行をもっと体験したかった」、「また来たい」といった感想が寄せられました。



10:00～オープニング

体育館に集まり、まずは外国人ゲストの自己紹介。それぞれの国の言葉で「こんにちは！」というあいさつや、名前を聞きました。この日のために集まったゲストは、10カ国17名です。



10:25～グループ対抗ゲーム

外国人ゲストを含めた4つのグループに分かれ、対抗ゲームの始まりです。○×クイズ、ボール送り、玉入れ、綱引き、長縄跳びを行いました。写真は、玉入れの玉を数えている様子。



12:20～世界旅行

元協力隊員が派遣された国の民芸品や民族服、楽器などに直接触れ、元隊員から話を聞くことで、多様な文化を肌で感じることができました。アジア、大洋州、中南米、アフリカ、中東を回って、世界旅行をした気分！



13:45～フィナーレ

ダンススクールの先生の指導による振付け練習のあと、メキシコ人ボーカリストがギター演奏する「ポラーレ」に合わせて、みんなと一緒に踊りました。聞いたことのあるメロディですが、踊ってみると意外に難しい？！



「世界の笑顔のために」プログラム

～二本松青年会議所の活躍～

「世界の笑顔のために」プログラムは、開発途上国で必要とされている教育、福祉、スポーツ、文化などの関連物品を日本国内で募集し、JICAが派遣中の青年海外協力隊員をはじめとするJICAボランティアを通じて、世界各地へ届けるプログラムです。

社団法人二本松青年会議所（以下、二本松JC）のメンバーは、毎年二本松市内にある中学校をまわって、使わなくなった楽器の回収活動を行っています。

集まった楽器を、「世界の笑顔のために」プログラムを使って、開発途上国へ届ける予定です。

平成22年度、福島県二本松市内で東和地区の7つの小学校が1校に、安達地区の2つの小学校が1校に統廃合されました。

二本松JCでは、不要になる学校のいろいろな用品を集めて、開発途上国へ贈ることも計画しています。

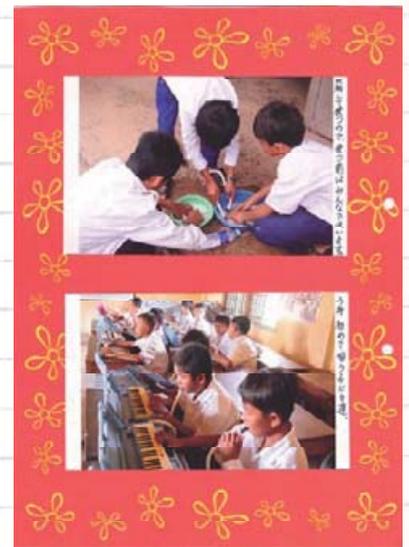
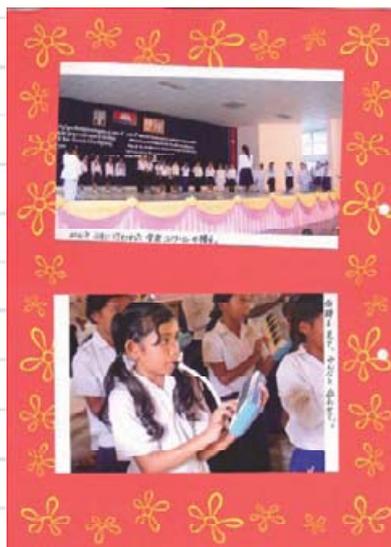


二本松市立小浜中学校からピアノを引き取る二本松JCのメンバー（右から野地専務理事、根本委員長、斎藤理事長）。左は、小浜中学校の丹治校長、生徒2名。



二本松市内の中学校を回り、楽器回収に協力をお願いする二本松JCのメンバー

メールでの呼びかけにご協力いただく福島県生活環境部国際課の伊藤俊雄主査



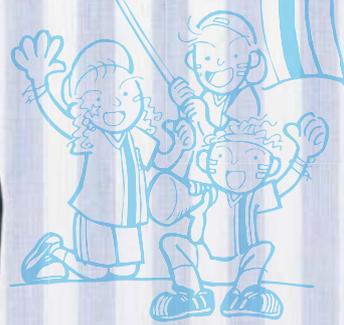
二本松JCにカンボジアから届いたお礼状 ▲▶
2008年度にも同じく「世界の笑顔のために」プログラムに参加し、楽器回収を行いました。当時カンボジアに派遣されていた隊員が楽器を受け取り、現地で活用した報告を見ることができました。そのときの喜びが、また続ける原動力になっています。

途上国の子どもたちに贈るために、現在、二本松市の教育委員会と二本松JCが協力し、不要になった学校用品を集めています。その後、「世界の笑顔のために」プログラムに応募し、世界の国々へ贈られる予定です。その過程において、必要なときには、福島県生活環境部国際課から現在派遣中のJICAボランティア（うつくしま国際協力大使）に連絡する場合があります。

統廃合された学校の不要品が、途上国でふたたび児童によって使われるよう、二本松JCのみなさんの活動は続きます。



サッカーボールから 児童労働を考える



福島県伊達市立霊山中学校
吉野ひな子教諭の取り組み

◀福島県伊達市立霊山中学校の英語科教諭、吉野ひな子氏

霊山中学校の吉野ひな子先生は、平成19年度JICA教師海外研修(バングラデシュ派遣)の参加者です。以来、時間を見つけては、工夫をしながら、子どもたちに世界のこと、日本とのつながりについて教えておられます。今回、道徳の時間を使った国際理解教育授業の様子を取材させていただきました。

今回の授業では、ワールドカップの話題に合わせ、「サッカーボールから児童労働を考える」に取り組みました。

まず初めに先生から、「2010年FIFAワールドカップが始まりますね!」との呼びかけに、生徒たちは、皆興味津々の様子。このスポーツの祭典に出場するセルビアとコートジボワールという2つの国を挙げ、「これらの国は難民のふるさとなんだよ」と語りかけます。そして「この難民キャンプでも人気の遊び、それが皆も好きなサッカー」であることを説明します。

「さて、このサッカーボールはどこで作られているのでしょうか?」という質問に、生徒はアフリカ、ブラジル、イタリア、などと答えます。答えは、「パキスタン」。日本で買うと1個5,000円のサッカーボールが、実はパキスタンの子どもによって、ボール1個を縫う給料が24円で作られている現実があることを知ると、教室がどよめきました。

日本の人口が約1億3,000万人に対して、世界の児童労働の人口は約2億5,000万人といわれています。

ここで、それぞれが感じた感想をノートに書くように指示がありました。そこには「ショックだった」「かわいそう」「日本は豊か」というものから、「家族のためにすごいと思う」「ボールを大切にしようと思った」「学校に行かせてあげたい」など、それぞれ感じた気持ちが書き込まれていました。



先生の説明を真剣に聞く生徒たち



班ごとに出た意見を発表しました

最後に、吉野先生は、児童労働が起きている世界の現実を知って行動を起こした2つの活動を紹介しました。一つは、当時12歳だったクレイグ・キールバーガー氏がカナダで設立した「フリー・ザ・チルドレン」、もう一つは貧しくてサッカーボールを買えない子どもたちへCDの売上金を使って、ボールを届けるYELL FROM NIPPONプロジェクトです。このYELL FROM NIPPONプロジェクトで作成した歌「友情のエール」を皆で聞き、児童労働に対していろいろな活動がされていることを知りました。

生徒たちに身近なサッカーを通して、遠い世界にいる同じ世代の子どもの生活を知り、自分たちと比べ、何ができるのかを考える貴重な時間となりました。

取材日：平成22年6月10日

「空飛ぶ車いす」に願いを込めて…

～修理ボランティアの取り組み～

「空飛ぶ車いす」とは、日本の工業高校生が再生した車いすを、アジア諸国の子どもや高齢者にプレゼントする活動です。この活動は、車いすをバトンとして、車いすを提供してくれる人、修理する人、運ぶ人、などのボランティアのリレーで成り立っています。

この中で、福島県立福島工業高等学校の機械科3年生8名は、蛭田清孝先生指導のもと、修理ボランティアを行っています。一度分解して部品の洗浄やタイヤ交換、さび取りなどの整備と修理をし、再度組み立てます。



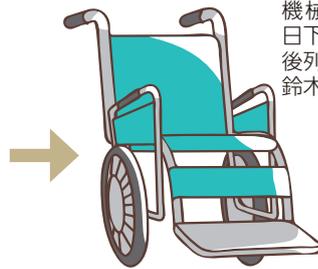
機械科の学生8名。前列左から、伊藤聖さん、日下卓也さん、高橋隼人さん、渡邊義晃さん、後列左から、担当の蛭田清孝先生、菅野利浩さん、鈴木遼さん、大井瑞貴さん、松尾洋輔さん。



①分解
これで車いす一台分



②磨く
丁寧に磨くと
輝いてきます



③整備・修理のあと
組み立てて完成!



車輪がよく回るよう熱心に指導する蛭田先生
2人一組になって一つの車いすを担当します

今年で活動3年目を迎えますが、初めは車いすがなかなか集まりませんでした。しかし、新聞での記事をきっかけに、県内外の個人や団体から届くようになりました。

生徒のほとんどが、車いすに触ることが初めてで、海外も遠い存在だったといいます。「工程は意外と難しい」というこの取り組みを続けていくうちに、「モノを大事にしようと思うようになった」と、それぞれに気持ちの変化が現れてきました。この車いすを使う人へ、「大切に使ってほしい」と生徒全員の心がこもっています。

班長の渡邊義晃さんは「自分が培った技術が、少しでも多くの体の不自由な人の役に立つことがうれしい」と、一生懸命車輪を磨きながら答えてくれました。自分と開発途上国とのつながりを少しずつ感じ始めている生徒へ、これからも気付きの機会を与えたい、と担当の蛭田先生の挑戦は続きます。

取材日:平成22年6月25日



出発前に、JICA 帰国専門家福島県連絡会による壮行会に出席した沼田光夫氏

✈️ベトナムへ行ってらっしゃい!

2010年3月に、福島県農林水産部農村振興課長を退職された沼田さんは、JICA専門家としてベトナムに派遣されることになりました。

農作物の生産体制及び制度運営能力向上プロジェクトに携わる予定で、協力期間は3年半とのこと。

「ベトナムは初めて」という沼田さんですが、「がんばってきてください!」と一同から応援を受け、笑顔で「行ってきます」と話されました。

健康に留意され、ご活躍されることを祈念しています。



異文化の眼 [第8回]



～福島で暮らす私の印象～

英語 語学講師
ジャッキー・ニューポート・ジュニア (アメリカ出身)

一般的に、二つのものを同時に持つことはできないものですが、人生の時々において、幸運に恵まれることがあります。私は幸運にも、住み、働くという二つのことを同時に叶えている特別な場所にいます。その場所とは、福島県です。

私が幸運に思っていることの一つは、JICA二本松で働きながら、四季折々の美しい自然を感じることができることです。JICA二本松は、あだたら山に位置しているため、春と秋には、周りの景色全体の色が鮮やかに変わり、鳥のさえずりに包まれます。冬には、雪が覆いかぶさり、まるで平和と穏やかさを絵に描いたようです。

私が幸運だと感じる二つ目のことは、郡山市という現代の便利な生活も同時に享受していることです。何か買いたいものがあれば、それを売る店が

あり、食べたいものがあれば、それを料理するレストランがあります。映画やコンサートの会場もあり、病気や怪我のときにも、頼れる場所があります。

なぜ福島に住んでいることが幸運かについて、場所をいくつも挙げることは簡単ですが、それよりも重要な理由があります。それは、ここに暮らす人々です。JICA二本松で、私が一緒に働く人々は素晴らしいです。ときにはうまく意思疎通ができなくて大変なこともあります。所長からスタッフにいたるまで皆、辛抱強く、理解のある人たちばかりです。郡山市のご近所の方々もとても親切で思いやりがあり、いつも必要なときに助けてくれます。

福島県は私にとって特別な場所で、本当に幸運に思っています。この場所は、精神を満足させるだけでなく、心も満たしてくれるからです。



スコット山頂から見たロートンカ湖



オクラホマ州ウイチタ山、野生動物保護区



アメリカ合衆国 Data	
面積：962.8万平方キロメートル	(50州、日本の約25倍)
人口：約3億914万人	
首都：ワシントンD.C.	
言語：英語	
通貨：米ドル	



福島県在住 OB OG 体験記 [第8回]



チリでの作業療法 体験活動を通して

平成19年度第2次隊 チリ・作業療法士 三菅 麻美 (本宮市在住)

チリ共和国。日本から直線距離で17,000*、時差 —12時間(冬時間は —13時間)、最短でも26時間かかる遠い国。

私は南米チリのペニャブランカ病院で作業療法に携わりました。作業療法室の新設、地域医療支援を主活動にし、その他、大学での講義、他の医療隊員との健康キャラバン・日本展、患者さんと折り紙展、剣道によさこいに三味線。出来る事は何でも挑戦しました。毎日突っ走り、慣れないスペイン語で意見を言い合い、悔しくて寂しくて泣いて過ごす日々もいっぱいありました。でも、どんなに辛い時でも同期の隊員をはじめ仲間が

支えてくれました。遠くの家族や友達もたくさんエールをくれました。そして、チリの家族や友達が抱きしめてくれました。

中進国チリでのリハビリを通し、現地で暮らす人々の生と死に触れ…生きる厳しさ、死を受け入れる強さを感じ、自分の仕事への意識が変わりました。感謝の気持ちと、笑顔がもたらす効果も実感しました。

私を心身共に成長させてくれた南米チリ共和国。そこは私の大切な第二の故郷です。



▲ 病院でリハビリをしている様子

◀ 地域リハビリ施設で作業活動をしている様子

福島県出身のJICAボランティア 平成22年度第2次隊

二本松青年海外協力隊訓練所では199名、長野県にある駒ヶ根訓練所では233名のボランティアが7月7日(水)に派遣前訓練を開始しました。

※紹介欄にあるJOCVとは「青年海外協力隊」、SVとは「シニア海外ボランティア」のことです。

■ 二本松訓練所



JOCV 原 寛典
出身地：いわき市
派遣予定国：ザンビア
職種：エイズ対策

座右の銘は「やらない善よりやる偽善」。現地では私の一つひとつの行動が何よりも大事になると思います。現地で活動するには訓練所での各種訓練は欠かせないものになりますので、精一杯楽しみながらがんばりたいと思います。



JOCV 菅野 良浩
出身地：川俣町
派遣予定国：フィリピン
職種：自動車整備

以前から憧れていた青年海外協力隊員になれたことを嬉しく思っています。私は、ここに来るまでもいろいろな方々に支えられて、また今も語学訓練などの指導を受けさせて頂いています。常に謙虚さを忘れずに、福島県の代表として恥ずかしくない立派な活動をして参ります。

■ 駒ヶ根訓練所



SV 遠藤 真一
出身地：いわき市
派遣予定国：ボリビア
指導科目：地質学



今駒ヶ根訓練所にて、スペイン語を始め必要な知識、特に人間の安全保障、公平性について、任国の目線で自助努力を支援するという大事な考え方を身につけています。そして、我々は任国で得た貴重な教訓や経験を、帰国後社会還元するよう決意を新たにしています。訓練所の研修が厳しい程、各国の国旗が余計身近に感じ、朝の国旗掲揚に感動致しています。



SV 森田 久夫
出身地：会津若松市
派遣予定国：パナマ
指導科目：農業生産技術



皆様、お元気でお過ごしでしょうか。私は駒ヶ根の雄大な自然に囲まれた環境の中で派遣前の訓練生活を過ごしています。任国での業務活動に必要な不可欠なスペイン語や国際協力に関する講座を学び理解し、隊員としての自覚を高め自己研鑽に努めています。訓練修了後の派遣に向けた、この貴重な支援の機会を企画されました事に感謝しております。



JOCV 山内 伸江
出身地：会津若松市
派遣予定国：セントビンセント
職種：村落開発普及員



任国へ向けて現在訓練所で同志と切磋琢磨し、語学や講義を受けています。何が出来るのか模索中ですが現地の人と共に生活し、問題を共有し信頼を築いていけるよう何事も積極的な姿勢で取り組んでいきます。不安もたくさんありますが、応援して下さる方々に感謝し、悔いの残らない活動ができるよう日々大切に過ごしていきたいです。



SV 吉田 恵美子
出身地：矢吹町
派遣予定国：ドミニカ共和国
指導科目：映像

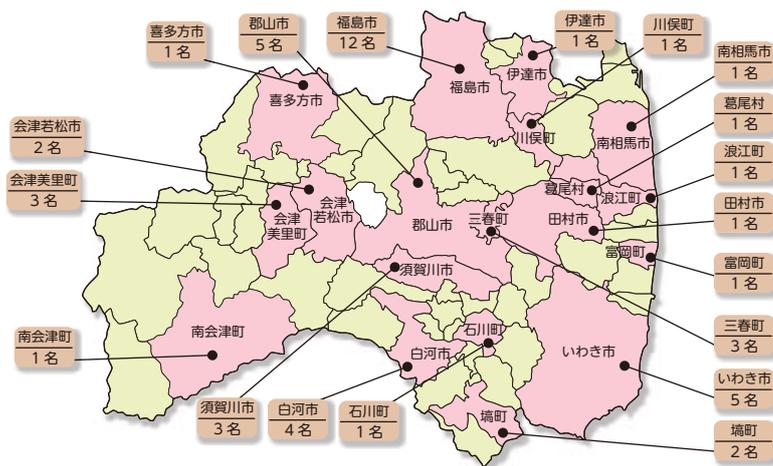


任国であるドミニカ共和国のマスメディア産業に少しでも貢献出来るよう頑張りたいと思います。これからこの業種を目指す現地の人たちに何か一つでもアドバイス出来たら嬉しいです。また現地の人たちとの交流により、自分もどれだけ共に成長出来るか今から楽しみでもあります。

福島県出身 JICA ボランティア 2010年7月7日現在 (派遣中)

福島県出身 JICA ボランティア人数
合計派遣中 49名 / 累計 583名

青年海外協力隊員数			
派遣中	43名	累計	534名
シニア海外ボランティア数			
派遣中	6名	累計	35名
日系社会青年ボランティア数			
派遣中	0名	累計	9名
日系社会シニアボランティア数			
派遣中	0名	累計	5名



8月～10月の イベント情報

8月 1日(日)	地球体験キャラバンスペシャル
8月 16日(月)～ 26日(木)	教師海外研修 モンゴル派遣
9月 9日(木)	平成22年度第2次隊 派遣前訓練修了
9月 11日(土)～ 12日(日)	ユース国際協力ミーティング
9月 13日(月)～ 17日(金)	JICAボランティア自治体表敬
9月 17日(金)	JICA国際協力中学生・高校生 エッセイコンテスト2010締め切り
9月 25日(土)	結・ゆい・フェスタ& 地球市民フェスティバル2010
10月 1日(金)～ 11月 8日(月)	JICAボランティア秋募集
10月 7日(木)	平成22年度第3次隊 入所式
10月 30日(土)	JICAボランティア一日体験

その思いを行動へ!
ユース国際協力
ミーティング '10
高校生募集まわし!

応募締切 2010年 8/31 (火)

人が好き!世界を知りたい!ボランティアに興味がある!
海外で活躍してみたい!青年海外協力隊に参加したい!自分自身に成長したい!
そんな思いを一歩、実践に近づけよう!仲間を一緒に歩んで!

二松松の青年海外協力隊訓練所へ!

きみを動かした
その思いが、
他の誰かを動かすんだ。

JICA国際協力中学生・高校生
エッセイコンテスト2010

行動～地球の仲間のために、私たちができること～

応募期間: 8/16～9/17

http://www.jica.go.jp/hiroba/essay/index.html

● 市民参加協力調整員 着任のお知らせ

JICA 二本松青年海外協力隊訓練所
市民参加協力調整員 渡邊 敦

福島県のみなさま、はじめまして。
生まれは三春町、約10年ぶりに故郷に戻ってきました。県内で行われるイベントや、学校の授業など、あちらこちらへ顔を出しますので、見かけたら気兼ねなく声をかけて下さい。



● 国内協力員 着任のお知らせ

JICA 二本松青年海外協力隊訓練所
国内協力員 松岡 武史

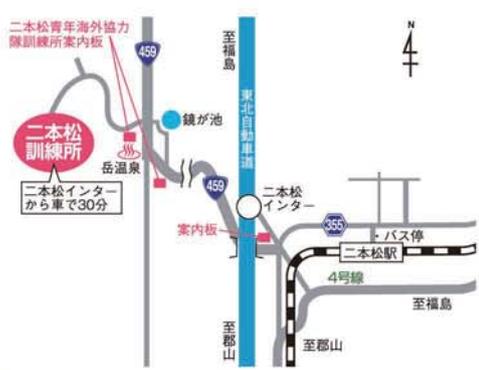
過去2回JICA二本松での勤務経験があり、この度6月より3回目の勤務となります。これまで海外ではペルー、ドミニカ共和国、エルサルバドル、ベネズエラと中南米で仕事をしました。地域の皆様のご協力をいただきながら、市民参加事業、開発教育に携われることを大変うれしく思います。福島県の皆様、どうかよろしくお願い致します。



平成22年度 JICAボランティア 秋募集 説明会日程

開催地	開催日	時間	会場
郡 山	9月26日(日)	14:00～16:00	ビッグアイ7階 ※青年海外協力隊のみ
福 島	10月3日(日)	14:00～16:00	コラッセふくしま5階
会 津 若 松	10月11日(月)	14:00～16:00	会津若松市中央公民館第1講義室
郡 山	10月16日(土)	14:00～16:00	ビッグパレットふくしま1階 ※矢島亮一氏講演会開催
い わ き	10月24日(日)	18:30～20:30	いわきラトブ企画展示ホール ※地球のステージ開催
二 本 松	10月30日(土)	15:00～17:00	JICA 二本松 ※JICA ボランティア一日体験開催(9:00受付開始)

読者の皆様へ 福島県内の小・中・高・大学等、会社、団体で行っている国際協力活動を紙面でご紹介します。情報をお寄せください。



JICA二本松へのアクセス

独立行政法人国際協力機構
二本松青年海外協力隊訓練所

E-mail: jicanjv@jica.go.jp
〒964-8558
福島県二本松市永田字長坂4-2
TEL: 0243-24-3200
FAX: 0243-24-3214

◆本誌、バックナンバーがご覧になれます... ※皆様からのご意見等をお待ちしております。
URL <http://www.jica.go.jp/branch/ntc/jimusho/newsletter.html>

本誌に関わるご意見・情報の連絡先
国際協力推進員 清海陽子 財団法人福島県国際交流協会 JICA デスク
〒960-8103 福島県福島市舟場町2-1 福島県庁舟場町分館2階
TEL:024-524-1315 FAX:024-521-8308
Email:jicadpd-desk-fukushimaken@jica.go.jp